

中期経営計画(第1期)実績評価

1 計画策定と推進の経過

福島県道路公社中期経営計画は、有料道路の利用促進と公社経営の改善を図るため、外部有識者である専門家を含む委員で構成する「経営計画マネジメント委員会」において公社の現状と課題、経営改善のための施策等について検討し、基本的な方針と数値目標、具体的な実行計画を盛り込み、平成18年9月に策定した。

計画の推進に当っては、全職員に趣旨・内容を周知徹底するとともに、経営計画マネジメント委員会の幹事会を毎月開催し、進捗状況を分析・評価して進行を管理し、効果的かつ着実な計画の推進を図った。

また、計画推進の具体的な取組みの一つである、「超勤縮減計画」と「エコオフィスの推進によるコスト縮減計画」を毎年度作成し、年度ごとの実績を分析・評価し、管理事務経費の縮減に努めた。

なお、この間、平成18年8月に高森熱海有料道路(母成グリーンライン)、20年8月には那須甲子有料道路の料金徴収期間が満了し、未償還金等を精算し無料開放した。

2 目標数値の達成状況

(1) 有料道路の交通量及び料金収入計画

1) 交通量

(単位：台)

実績				対比 B/A	計画目標値 20年度 C	達成率 B/C
17年度 A	18年度	19年度	20年度 B			
609,971	594,114	577,463	519,527	85.2	658,700	78.9

(表1、資料3-3, 3-5)

2) 料金収入

(単位：千円、%)

実績				対比 B/A	計画目標値 20年度 C	達成率 B/C
17年度 A	18年度	19年度	20年度 B			
489,691	477,548	469,568	409,686	83.7	495,483	82.7

(表2、資料3-4)

(2) 支出削減計画(維持費事務諸費、業務管理費)

(単位：千円、%)

実績				減少額 C=A-B	無料開放 に伴う減 D	純減少額 (比較額) E=C-D	減額 目標値 F	達成率 E/F
17年度 A	18年度	19年度	20年度 B					
211,875	204,940	201,571	141,950	69,925	8,757	61,168	14,000	436.9

(表4、資料3-6)

(3) 有料道路収支計画

1) 収入額

(単位：千円、%)

実 績				対比 B/A	計画目標値 20年度 C	達成率 B/C
17年度 A	18年度	19年度	20年度 B			
522,803	510,925	506,810	446,434	85.4	528,453	84.5

(表5-3、資料3-7)

2) 支出額

(単位：千円、%)

実 績				対比 B/A	計画目標値 20年度 C	達成率 C/B
17年度 A	18年度	19年度	20年度 B			
422,842	393,623	368,470	316,542	74.9	397,566	125.6

(表5-6、資料3-6、7)

3) 収支差額

(単位：千円、%)

実 績				実績累計額 (18~20年度) A	計画累計額 (18~20年度) B	達成率 A/B
17年度	18年度	19年度	20年度			
99,961	117,302	138,340	129,892	385,534	305,271	126.3

(表5-7、資料3-7)

(4) 有料駐車場稼働計画

(単位：台、%)

実 績				対比 B/A	計画目標値 20年度 C	達成率 B/C
17年度 A	18年度	19年度	20年度 B			
343.9	362.0	336.6	331.4	96.4	367	90.3

(表6、資料3-9)

(5) 人員配置計画

(単位：人、%)

区分	実 績			削減数 C=A-B	削減 目標値 (18→20) D	達成率 C/D
	18年度 A	19年度	20年度 B			
役員	2	2	2			
職員	23	20	20	3	1	300.0

(表3、資料3-2)

(6) 借入資金の償還計画

(単位：千円、%)

未償還額実績				増減額 B-A	計画目標値 20年度 C	目標値 との差 B-C	達成率 C/B
17年度 A	18年度	19年度	20年度 B				
7,290,415	7,272,585	7,252,542	7,275,135	△15,280	7,002,959	272,176	96.3

(表7、資料3-10)

3 各施策の実施状況

(1) 有料道路利用増加等による収入の確保

1) 有料道路事業

地域と連携した観光振興を図るため、18年度にスカイラインの早期再開通と浄土平駐車場料金割引の社会実験を実施し、19年度以降も早期再開通を継続実施し、福島市の花見山とスカイラインの「雪の回廊」を合わせた利用増を図った。

また、有料道路の魅力向上を図るため、プール制道路の景観良好地点の説明板や案内板の整備、吾妻八景標柱の建替え等を行い、有料道路の景観が改善されるとともに、景観ポイントや駐車場位置がわかりやすくなった。また、ゴールドライン幻の滝遊歩道を整備し新たな見どころとして定着したことから、引続き見どころ掘り起こし作業を進めることとし、実現に向けて調査・検討を行った。

広報、PR 面においては、福島市と連携し花見山会場で PR 活動を実施したほか、県主催観光展等への参加、旅行会社への企画旅行の働きかけ、隣接県におけるCM放送の実施、「観光有料道路マスコットキャラクター」の制作、「吾妻山の詩」CD 化音源の制作など多様な活動を行うとともに、マスコットキャラクターの愛称を全国公募で「シャクリン」と決定し、携帯ストラップの製作やシール作成に活用した。

また、平成19年度末に設立された磐梯吾妻観光推進協議会と連携し、プール制道路のプレミアム付きセット券を発売し、有料道路の利用拡大と周遊観光の促進を図るとともに、高地トレーニング教室等を開催し、利用者層の拡大に努めた。

また、情報発信の柱としてホームページをリニューアルし、現在の道路状況や天気情報を毎日、定期的に更新して利便性の向上を図るとともに、高山植物やトレッキングコース、浄土平のイベント案内、周辺観光情報等を掲載するなど、内容の充実に努めた。また、道の駅や公的施設、県内企業等を訪問し、ポスター・リーフレット等を配布して有料道路への誘客と利用促進に努めた。

2) 附帯施設事業(レストハウス)

中津川溪谷レストハウス、不動沢橋レストハウスとともに、店内ディスプレイや品揃え、メニューの改善、案内板の設置等に取り組んだ。

3) 有料駐車場事業

満車でない駐車場について、新聞折込み広告の実施や地元広報誌への案内記事掲載等を行った。

(2) 組織の効率化と維持管理費の縮減

1) 組織の見直し及び人件費の抑制

平成19年4月から FF 型組織を導入して課長職を廃止し、効率的な組織とした。また、設計積算受託業務量の減少から従事職員1名を削減し、更に、プロパー職員退職者の後任を不補充としたことから1名減少し、合計3名の減員になった。

更に、県職員に準じて20年度から給与抑制措置を講じ、人件費の縮減に努めた結果、人件費は17年度に比較し34,678千円減少した。

また、臨時職員については、雇用月数減により実質1名を削減した。

2) 維持管理業務の見直し及び事務経費の削減

料金収受員の配置など委託業務全般にわたる見直しを行うとともに、条件付一般競争入札の導入や契約方法の見直しを行い、落札率の低下等で大幅な経費縮減に繋がった。また、

社用車3台を廃車し、併せて20年度からハイブリッド車を1台導入し燃費向上を図った。

また、予算編成において管理事務費の一律削減を実施し、効率的執行に努めるとともに、毎年度に「超勤縮減計画」と「エコオフィスの推進によるコスト縮減計画」を定め、ノー残業デーの徹底や光熱費の縮減に努めるとともに、実績評価を行うことで、職員の意識向上とコスト縮減に努めた。

(3) 有料道路の安全対策、施設更新

平成18年度にスカイライン霜降地区の応急防災対策工事を実施するとともに、プール制道路施設の総点検を行って「プール制道路施設の更新計画」を策定し、緊急度の高い箇所から防護柵工や落石防止網工を計画的に実施した。

(4) 有料道路の継続等に関する検討

プール制道路の料金徴収期間満了後における維持管理方法等について検討するため、維持管理有料制度が認められた先進県の調査等を実施した。

(5) 設計積算業務等の受託量の確保等

定期的な営業活動を実施し、受託量の確保に努めた。

4 事業別評価と課題

(1) 有料道路事業について

- 1) 利用台数の減少傾向に歯止めをかけるため、有料道路の魅力向上と、広報媒体の整備・活用の取組みをほぼ計画どおり実施したが、予想外の自動車燃料の高騰、世界同時不況の影響等も加わって、利用台数の減少に歯止めがかからず、利用台数、料金収入ともに計画を達成できなかった。
- 2) 組織の見直し、管理事務経費の一律削減、契約方法や受託仕様の見直し等を計画どおり実施し、経営の効率化とコスト縮減に努めたことから、人員配置計画、支出削減計画の削減目標を達成し、また、計画期間中の収支差額の累計額は目標値を上回る385,534千円となって、有料道路収支計画を達成した。
- 3) 霜降地区対策、道路施設更新を計画どおり実施し、安全性・快適性が向上した。
- 4) 未償還金については、建設資金を計画どおり償還したが、霜降地区対策工事と道路施設更新の設備投資を行った(合せて299,012千円)こと、及び償還財源に不足したことから運営資金を借り入れたため、未償還金残高の減少額は15,280千円となった。
- 5) 本計画で推進した有料道路の魅力向上の取組みや施設更新、磐梯吾妻観光推進協議会との連携事業、プール制セット券の発売や利用促進キャンペーン等を引続き実施するとともに、マスコットキャラクターやリニューアルしたホームページの活用、旅行会社・宿泊施設への働きかけ強化等により、利用台数と料金収入の確保に努め、未償還金の一層の縮減を図っていく必要がある。
- 6) プール制道路の料金徴収期間満了後の維持管理方法等について早急に検討し、合意形成を図っていく必要がある。

(2) 有料駐車場事業について

稼働率の低い駐車場について大口利用者の事業所廃止や立地条件から利用が伸びず、稼働計画を達成できなかった。引続きPR方法を工夫し稼働率の向上に努めるとともに、新規

設置等により収益増加を図っていく必要がある。

(3) 附帯施設事業について

品揃えの改善、郷土色をいかしたメニューの開発など、部分的に取組みの成果はあるが、通行台数の減少が売上げに直に影響し、収益改善に至らなかった。今後、受託者とともに案内標識の整備や利用者サービスの改善に努め、立寄率の向上と収益の増加を図っていく必要がある。特に、受託者が変更になった中津川レストハウスについては、地場産品や食材を活用して品揃えや食事の提供等を工夫し、施設の魅力向上に取り組んでいく必要がある。

(4) 設計積算業務受託事業について

担当職員数の減少にかかわらず、平成17年度の受託実績を確保した。受託業務収入が有料道路の収支に大きく影響することから、弾力的組織運用と業務執行の円滑化、効率化を図っていく必要がある。また、県の公社等見直し実行計画に沿って、受託業務の在り方、規模等について見直しを行っていく必要がある。

5 まとめと今後の展開

本中期経営計画は、通行台数の減少傾向に歯止めをかけ公社経営の改善を図るため、有料道路の利用促進と経費削減の目標数値と具体的な実行策を定め、進行状況を管理しながら、職員全体の取組みとして推進を図ってきた。

その結果、余暇の過ごし方の変化等に加え、急激な原油価格高騰の影響等から通行量、料金収入の回復は得られなかったが、

- スカイラインの早期再開通、景観良好地点の整備、道路施設の更新、沿線見どころの掘り起こし等により、有料道路の魅力と安全性・快適性が向上した。
- ホームページのリニューアル、マスコットキャラクターの制作、誘客活動の実施等により広報と情報発信の基礎固めができた。
- 組織人員の見直し、維持管理業務内容の見直し、事務経費の削減等により、大幅な経費縮減ができた。
- 計画の推進、改善策の取組みを通じて、職員の改善意欲の増進とコスト意識の向上が図られた。

などが本計画推進の大きな成果であり、これらの取組みを継承発展し成果の活用を図ることにより、今後の通行台数の回復と公社経営の改善に繋げていきたい。

スカイライン景観整備状況 S=1:50,000

吾妻八景

7.5km(つばくろ谷)
H18整備:説明板



8.0km(不動沢橋駐車場)
H18整備:説明板



吾妻八景

15.0km(浄土平)
H20整備:標柱



吾妻八景

19.7km(双竜の辻)
H20整備:説明板、標柱、P案内板



吾妻八景

26.3km(天風境)
H18,H19整備:説明板、標柱、P案内板



吾妻八景

25.3km(湖見峠)
H19整備:説明板、標柱、
駐車スペース、P案内板



吾妻八景

27.3km(国見台)
H20整備:説明板、標柱、P案内板



ゴールドライン景観整備状況 S=1:50,000



ばや池と磐梯山



14.1km(ばや池遊歩道入口)
H20整備: 入口標識



13.1km(こがね平)
H20整備: P案内板



8.3km(幻の滝)
H19整備: 遊歩道整備、案内板、
P整備、P案内板



遊歩道入口



猫魔橋 S43
L=7.0 W=8.5(9.3)

十八曲橋 S43
L=7.0 W=7.8(8.6)

滝の沢橋 S43
L=7.0 W=9.0(9.8)

6.2km(山湖台)
H20整備: P案内板



井戸沢橋 S423
L=7.02 W=8.0(8.8)

標高1194m (最高地点)

源橋ゲート

山湖台

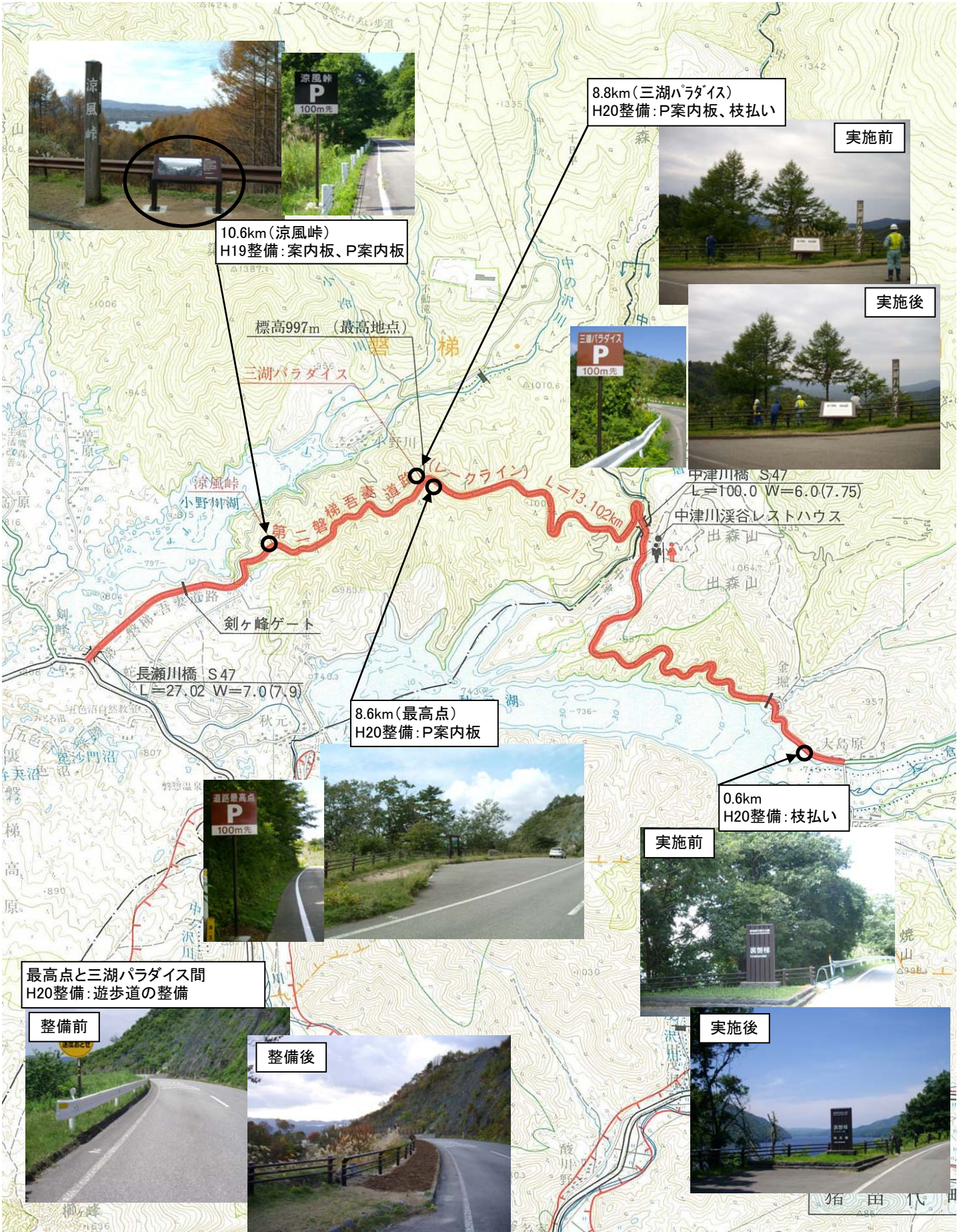
100m先

磐根線

磐島停車場

磐梯山

レークライン景観整備状況 S=1:50,000



施設更新成果状況(1)

道路公社工務部:H21.6.22

◆スカイライン実施状況

霜降地区では、錆びて変形したガードレールを景観型ガードパイプにし、凍結融解と火山性ガスの影響でボロボロになった地覆を補修した。その他の地区では、老朽化で錆びたガードレールを、景観的で耐雪型のガードケーブルに更新した。



施設更新成果状況(2)

道路公社工務部:H21.6.22

◆スカイライン実施状況

老朽化で錆びて変形したガードレールを、景観色で耐雪型のガードケーブルに更新した。また、老朽化で腐食破損した落石防護柵を景観色落石防護柵に更新した。



施設更新成果状況(3)

道路公社工務部:H21.6.22

◆ゴールドライン実施状況

老朽化し雪の重みで沈んだガードケーブルを、景観色で耐雪型のガードケーブルに更新した。



◆レークライン実施状況

老朽化で錆びて変形したガードレールを、景観色で耐雪型のガードケーブルに更新した。



施設更新成果状況(4)

道路公社工務部:H21.6.22

〇レークライン防護柵実施状況

老朽化で錆びて変形したガードレールを、景観色で耐雪型のガードケーブルに更新した。また、老朽化し破損した落石防止網を景観色落石防止網に更新した。



広報、PRのためのHPリニューアル等

○ホームページのリニューアル（平成18年度）



○福島県観光有料道路お役立ちガイドマップの作成（平成18年度）



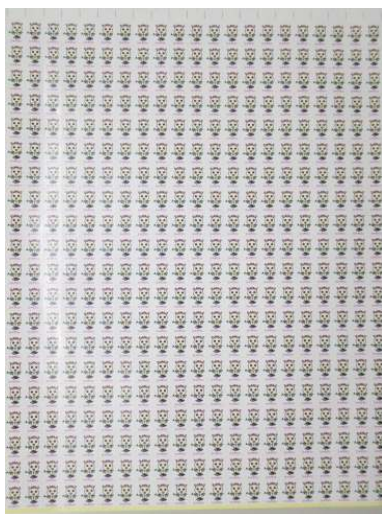
○マスコットキャラクター「シャクリン」(平成19年度) ※愛称募集は平成20年度実施



○携帯ストラップ・シールの作成(平成20年度)



携帯ストラップ(青・ピンク)



シャクリンシール(名刺用)



シャクリンシール(封筒用)